

GREEN Neighborhood

米国ポートランドにみる
環境先進都市の
つくりかたとつかいかた

序章 ポートランディア 懐かしい未来のかたち

ポートランド→パシフィックノースウェストのシアトルとカルフォルニアの間に位置する、人口 56 万人（周辺都市を含めると 214 万人）のオレゴン州最大の都市。そのポートランドが、「全米で最も環境に優しい都市」、「全米で最もおいしいレストランが集まる都市」「ベストデザイン都市全米5位」などの理由をもって注目を集めている。その理由として、オレゴン州の土地利用制度である「都市成長境界線」が挙げられる。

都市成長境界線

→都市化が可能な土地とそれ以外とを明確に区別した都市政策。

ポートランドの自然環境保全と、刑事発展の双方のバランスを保つことを目的としている。

→市の郊外には、新たな開発行為が許されない、広大なグリーンフィールドが広がっている。

開発可能な都市部→コンバージョンによる、ミクスミューズ開発、都心での生活を支えるストリートカーの実用など、市と民間デベロッパーとが協力して、都市開発が行われている。

パールディストリクト→リベラルな酸素濃度の高いポートランドにおいて、特に色濃く反映されたエリアであり、職・住・遊の各機能の融合（ミクスドユーズ）を前提としたグレート・ダイバース・コミュニティが具体的な形として実現されている。



1 章 アーバンネイバーフッド 新しい都市再生のかたち

アーバンネイバーフッドをつくる

ネイバー（隣人や近所の人）フッド（集合体）＝人が住む地区

典型的な郊外のネイバーフッド→まちを構成する要因が長期で限定・固定されるため、開放的な雰囲気は失われ、同調圧力、同質化傾向がまちを覆い始める（日本も当てはまる）

パールディストリクト

一辺が6 0 m の正方形の街区、約 100 ユニットで構成された 1 2 0 h a の都市再生エリア

まちを構成する要因は一樣ではなく絶えず変化を繰り返す動的平衡状態。→アーバンネイバーフッド

具体的なエートスが存在する「自らの工場や変化や成長を能動的に求める暮らし。という価値観を共有する地域共同体。

ディベロッパーはコミュニティライフの夢を見るか

ホイト社 個々の建物開発に注力するのではなく、”ビルド・ザ・アーバン・ネイバーフッド”をコンセプトにした

具体的には…

- ・効果道路の撤去→ウォーカブルな環境を整える ・ストリートカーのダウントウンからの延長
- ・建物の一階は店舗やギャラリー用途に制限
- ・月に一度のアートイベントの支援

「LEED（環境性能評価制度）ネイバーフッド・ディベロップメント」に申請中

30 フィート以下の世界観

アーバンネイバーフッドに重要な点

- ・開発地と既存市街地のコネクション
- ・生活に根付いたネイバーフッドレストランという社会資本整備
- ・日常の生活、生活の充足

3 0 フィート（約 9 m）の世界で起こる日常が大切

アーバン・ミクストユーズ・コミュニティ（都心居住エリアにおける人種の雑多性を示す）だということを前提に移住する

→選択的移住 コミュニティをつくるという当事者意識を居住者それぞれが持つ

パールに則したアーバンネイバーフッド

「ウォーカビリティ」「ミクストユーズ」「クリエイティビティ」

ネクストフェーズ ポートランド

PDC（ポートランド市開発公社）は都市中心の都市再生により生じた社会問題への反省から幕を閉じ、プロスパーポートランドへ

都市再生事業の対象を市街地のネイバーフッドへと矛先を変え、経済開発事業の面ではマイノリティや女性が経営するスモールビジネス支援を中心に。

2 章ハピネス・バイ・クリエイティビティ 新しいウェルビーイングのかたち

実験する精神、実験を受け入れる精神

ポートランド市の取り組み

企業誘致にも増して、才能豊かな人材の獲得を達成

アマゾンの誘致条件→安定的な人材供給ができる体勢に加えアーバンアメニティ資本の重要性も強調

かつてのビジネスマン「work hard,play hard」

近代のテック系クリエイター オフィスに遊びの要素を持ち込み、オンとオフの境界をいかに曖昧にするかに注力している

ポートランドでも

「金儲けも大事だけど、それ以上にものづくりの新しいプロセスを学んだり、スキルを身につけることを優先する」

↑生活の質と創造性とは表裏一体の関係である

ポスト大量生産型経済であるアルチザンエコノミーの真骨頂

まちとクリエイティビティとの良好な関係

- ・クリエイティブな人種が生活しながら働ける環境
- ・ネイバーフッドレストラン・ストアの存在とその質（ローカルな企業が相応しい）
- ・ミュージアムではなく、ストリートに芽生えるユーススピリットが重要
- ・クリエイターとは：優秀なデザイナーのことなく、創造的なアイデアで社会的な課題を解決したり、人と人、人と企業の間に新たな関係を構築できるクリエイティブなシンカー
- ・アートと街の良好な関係（同時一斉のオープンギャラリー、月に一度のアーバンメッカ）

PNCA パシフィック・ノースウエスト・カレッジ・オブ・アート

掲げる使命：社会的な問題に対して創造的に解決できる人材を育成する

クリエイティビティと環境共生と都市文明 3 要素の集約

経済の成長・拡大時においては、モノの大量生産・計画的陳腐型、あるいは消費や取得に対する対する歓びが主流の、いわゆるマーケティングが社会をリードする時代だったのに対し、

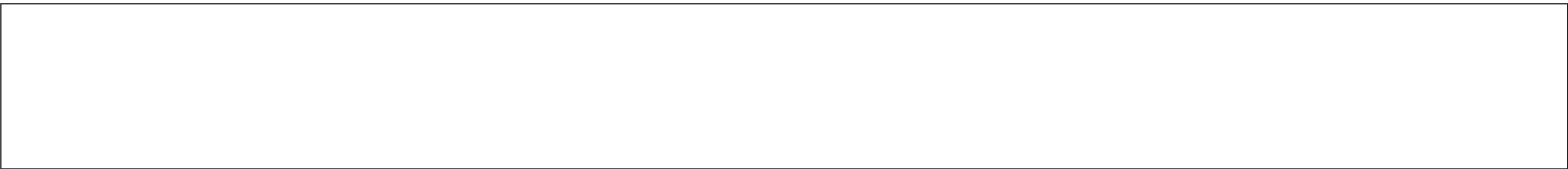
経済の縮小・質の充実が求められる時代においては、クリエイティビティによる創造的試行錯誤や革新的な価値の創造行為自体を楽しみ、謳歌するマインドが主流となるのでは

エースホテル

約 90 年前に建てられたホテルの再利用

ローカルの材料を使い、ローカルのアーティストに部屋のデコレーションを頼む、という地産地消の考え方

無理をしない等身大で勝負するという誠実さが、コミュニティに受け入れられた



3章 アルチザンエコノミー 新しい資本主義のかたち

消費社会から創造中心の社会へ

COVID－19がもたらしたソーシャルディスタンスや都市封鎖の遺産として、アーバニズムに最も大きな影響をもたらしたりリモートワーク→企業の集約から離散への働き方のリセットが起こった

高度経済成長時代の経済の主役:製造業 現在の先進国の経済の主役:知識集約型産業

→「労働」による経済成長から「創造」による経済成長に変容した

創造中心の価値観に支えられた創造中心の社会こそを心がける必要がある

クリエイティビティの民主化

クリエイティビティ:人間誰しものが備えている基本的資産

今ようやく、文化芸術から開放され、ビジネスや経済の分野、生活の質、あるいは、ウェルビーイングやハピネスといった人間の幸福追求の分野と結合し始めた

街づくりとは、自らのQOLのための活動というアチチュード

PDNA (Pearl District Neighborhood Association)の活動

現在パールが抱える問題

- 複数の環ション開発による道路封鎖
- 建設されようとしている高層マンション
- 住宅不足問題

「アーティストにとっての中心地であった場所が家賃が上がり、だんだんお高所得者向けになっている現状」

→地域のためではなく、自らのQOLのため、という考え方をベースに。魅力的なコミュニティを作るためには住人一人一人の当事者意識をあげることが重要

アルチザン(職人型)エコノミーの台頭

ポートランドはアルチザンが互いにものやアイデアのやりとりをし、お互いを知っている、ネイバーフッド単位で成立しているまち

いったん分離されてしまった仕事と生活が、アルチザンエコノミー下の創造的社會において再統合された都市経済の変革における開拓者である

東京の都市において

- 日本では「つながる」こと自体に比重が置かれメインテーマになりがち

ポートランドでは、自らが実現したい明確な目的を達成するために、スキルやアイデアを交換するために人と「つながる」という意識

- 東京は創造の場ではなく、消費の場になりがちである(企業に就職するために移り住む人が圧倒的なため)

→大規模開発ありきという発想から抜け出し、人々が実際に仕事をしているネイバーフッドのレベルに目線を合わせる事が重要

「消費都市」から「生産(創造)都市」へ

日本の都市再生のキーワードになるのではないか